

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-61503

(43) 公開日 平成11年(1999) 3月5日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

F I

A 4 1 B 9/04

A 4 1 B 9/04

G

11/14

11/14

B

A 4 1 C 1/00

A 4 1 C 1/00

C

E

F

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号

特願平9-216848

(22) 出願日

平成9年(1997) 8月11日

(71) 出願人 000001339

グンゼ株式会社

京都府綾部市青野町膳所1番地

(72) 発明者 阿武 克也

大阪府大阪市北区中崎西2丁目4-12 グ  
ンゼ株式会社内

(72) 発明者 高畑 慎治

大阪府大阪市北区中崎西2丁目4-12 グ  
ンゼ株式会社内

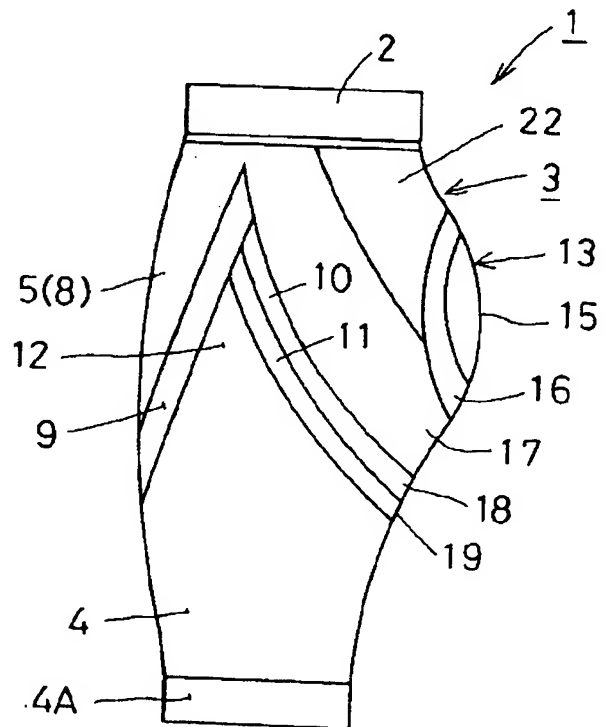
(74) 代理人 弁理士 安田 敏雄

(54) 【発明の名称】 ボトムウェア

(57) 【要約】

【課題】 パンティ部の腹部(前身部)では膨出抑制効果を、パンティ部のヒップ部(後身部)ではヒップアップ効果を達成する。

【解決手段】 パンティ部3の腹部5は第1部分8、第2部分9および第3部分10、11とパワーを徐々に弱くしており、パンティ部3のヒップ部13は丸味部分15のパワーが最も弱くこの周辺の臀部対応部分16の下周りに広巾ベルトによる第1ヒップアップ部分17をパワーを強くして備えている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 伸縮糸によりウエスト部、パンティ部、レッグ部が一体的に編成されたボトムウェアであって、パンティ部の腹部は、マチ部からそけい部に沿ってV字ラインに延伸されかつこのV字ラインで囲まれた第1部分と、この第1部分の両側にあつてV字ラインに沿ってベルト状に延伸された第2部分と、この第2部分における延伸端の両側にあつて下向外方に傾斜してヒップ部側に延伸されたベルト状の第3部分とからなり、パンティ部のヒップ部は、マチ部からY字状に延伸したベルト状の臀裂対応部分と、この臀裂対応部分の両側にあつてヒップ頂点付近の丸味部分とこの丸味部分を取り囲んでいる左右の臀部対応部分と、この臀部対応部分の下周りにあつて前記腹部の第1部分に連設されている広巾ベルト状の第1ヒップアップ部分と、このヒップアップ部分の下周りであつて前記腹部の第3部分に連設されているベルト状の第2ヒップアップ部分とからなり、前記各部分の編組織を異ならすことで前記腹部の第1部分および第1ヒップアップ部分が最も締付力が強く、レッグ部にかけて段階的に締付力を弱くしているとともに、左右の臀部対応部分における丸味部分が最も締付力が弱くされていることを特徴とするボトムウェア。

【請求項2】 パンティ部の腹部における第1部分とヒップ部における広巾ベルト状の第1ヒップアップ部分とが3:1でニットタックによるストライプ編組織とされ、パンティ部の腹部における第2部分が2:2でニットタックによるメッシュ編組織とされ、パンティ部の腹部における第3部分およびヒップ部における第2ヒップアップ部分が2:1でニットタックによるメッシュ編組織と1:1でニットタックによるメッシュ編組織とされ、パンティ部のヒップ部における臀裂対応部分が1:1でニットタックによるストライプ編組織とされ、左右の臀部対応部分およびレッグ部はプレーン編組織とされ、かつ、臀部対応部分における丸味部分の度目が拡大されていることを特徴とする請求項1記載のボトムウェア。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ボトムウェア、更に詳しくは体型補整機能（整容機能）を付与したボトムウェアに関するものである。

【0002】

【従来の技術】体型補整機能（整容機能）を付与したボトムウェアとして特公平7-18041号公報で開示のパンティストッキング（従来例の1）および特開平9-119003号公報で開示のパンティストッキング（従来例の2）等があり、いずれも腹部の膨出抑制効果及びヒップアップ効果を図ったものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来例の1および2は

それぞれ有用性があるものの、次のような課題を解決できれば、腹部の膨出抑制効果及びヒップアップ効果がより一層期待できるのである。すなわち、従来例の1においては、ヒップ部分に広範囲に亘ってプレーン組織からなる伸縮性に富んだ部分を形成しているため、ヒップ部が抑え付けられるのを防止することができているが、より積極的にヒップ部を持ち上げる所謂ヒップアップ効果が充分といえないものであった。

【0004】また、従来例の2においては、腹部を抑えるダイヤ形状部分が最も締付け力を強くし、以下順に上レッグ帯状部分、ヒップ周辺部分、丸形状部分と締付力を小さくしており、これでは、パワー（締付力）をあまり必要としないレッグ部分のパワーが強過ぎて着用感が余り良くないし、しかも、美しいシルエットが得られ難いという課題があった。

【0005】そこで本発明は、パンティ部の腹部すなわち、パンティ部の前身部においては人体腹部を押える第1部分の締付力（パワー）を最も強くするがそけい部に沿う第2部分およびレッグ部上方の第3部分と徐々にパワーを弱くすることで、すなわちパワーを段階的に変化させることで人体腹部の膨出抑制効果を十二分に発揮させつつ着用感と美しいシルエットを得ることができるとともに、パンティ部のヒップ部すなわちパンティ部の後身部にあつては、ヒップの丸みを演出できながらヒップアップ効果を確実に達成できるようにしたボトムウェアを提供することが目的である。

【0006】ここでボトムウェアとは、ガードルとして用いたものの他、ストッキング部と一体としたパンティストッキングあるいはタイツのパンティ部に用いるものも含む意味である。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、伸縮糸によりウエスト部、パンティ部、レッグ部が一体的に編成されたボトムウェアであつて、前述の目的を達成するために、次の技術的手段を講じている。すなわち、請求項1に係るボトムウェアは、パンティ部の腹部は、マチ部からそけい部に沿ってV字ラインに延伸されかつこのV字ラインで囲まれた第1部分と、この第1部分の両側にあつてV字ラインに沿ってベルト状に延伸された第2部分と、この第2部分における延伸端の両側にあつて下向外方に傾斜してヒップ部側に延伸されたベルト状の第3部分とからなり、パンティ部のヒップ部は、マチ部からY字状に延伸したベルト状の臀裂対応部分と、この臀裂対応部分の両側にあつてヒップ頂点付近の丸味部分とこの丸味部分を取り囲んでいる左右の臀部対応部分と、この臀部対応部分の下周りにあつて前記腹部の第1部分に連設されている広巾ベルト状の第1ヒップアップ部分と、このヒップアップ部分の下周りであつて前記腹部の第3部分に連設されているベルト状の第2ヒップアップ部分とからなり、前記各部分の編組織を異ならすことで前記

腹部の第1部分および第1ヒップアップ部分が最も締付力が強く、レッグ部にかけて段階的に締付力を弱くしているとともに、左右の臀部対応部分における丸味部分が最も締付力が弱くされていることを特徴とするものであり、このような構成を採用したことによって、人体腹部の膨出抑制効果を十二分に発揮しつつ着用感と美しいシルエットを得ることができ、一方、ヒップ部においては人体ヒップに丸味をもたせつつ確実なヒップアップ効果を約束できるのである。

【0008】また、請求項2に係るボトムウェアにあっては、パンティ部の腹部における第1部分とヒップ部における広巾ベルト状の第1ヒップアップ部分とが3:1でニットタックによるストライプ編組織とされ、パンティ部の腹部における第2部分が2:2でニットタックによるメッシュ編組織とされ、パンティ部の腹部における第3部分およびヒップ部における第2ヒップアップ部分が2:1でニットタックによるメッシュ編組織と1:1でニットタックによるメッシュ編組織とされ、パンティ部のヒップ部における臀裂対応部分が1:1でニットタックによるストライプ編組織とされ、左右の臀部対応部分およびレッグ部はプレーン編組織とされ、かつ、臀部対応部分における丸味部分の度目が拡大されていることを特徴とするものであり、前述した締付力（パワー）の変化と編組織の変化によってより一層の整容機能（体型補正機能）を付与できるのである。

【0009】なお、上記説明における比率例えば、3:1とは性質の異なる編糸の比率を示し、例えばポリウレタン弾性糸を芯糸とし、これにS・Zの両方向よりウーリーナイロン糸をカバーリングしてなるダブルカバーリング糸3本に対してウーリーナイロン糸を片側方向より巻付けたシングルカバーリング糸1本を用いて編成したことを意味し、以下の比率の記載はこのような比率を意味する。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、図を参照して本発明に係るボトムウェアの実施の形態をその作用について説明すると、図1～3に示した本発明に係るボトムウェア1は、伸縮糸によりウエスト部2、パンティ部3、レッグ部4が一体的に編成されている。ウエスト部2およびレッグ部4の下端部4Aはいずれもダブルウエルトに構成され、かつ広巾とされることによって着用時ソフトな感触が得られ、着用跡が人体に残るのを防止しているとともに、着用時において外観上衣類（スカート、ズボン等）に不都合なラインが現出するのを防止しているのである。

【0011】パンティ部3の腹部（前身部）5は、裏綿にて構成したマチ部6から人体そけい部に沿ってV字ライン7に延伸されかつこのV字ライン7で囲まれた第1部分8と、この第1部分8の両側においてV字ライン7に沿ってベルト状に延伸された（ウエスト部2に向かって徐々に広巾とされている）第2部分9と、この第2部分

9における延伸端の両側において下向外方に傾斜してヒップ部側に延伸された2本のベルト状の第3部分10、11とから主構成されており、前記第2部分9はウエスト部2に至っておらず、また、前記2本の第3部分10、11は、マチ部6の位置においてヒップ部側に延伸されていて、左右のレッグ部4における前身部の上端部には逆V字状（下方拡大状）の接続部12を有し、この接続部12を含んでレッグ部4は下方に向って度目が大きくなるように変化させることによって身体へのフィット性の高い立体的な形状とされている。パンティ部3のヒップ部（後身部）13は、マチ部6からY字状に延伸したベルト状の臀裂対応部分14と、この臀裂対応部分14の両側においてヒップ頂点付近の丸味部分15とこの丸味部分15を取り囲んでいる左右の臀部対応部分16と、この臀部対応部分16の下周りにあって前記腹部の第1部分8に連設されている広巾ベルト状の第1ヒップアップ部分17と、このヒップアップ部分17の下周りであって前記腹部の第3部分10、11に連設されている2本のベルト状の第2ヒップアップ部分18、19とから主構成されている。

【0012】より具体的に説明すると、臀裂対応部分14はマチ部6に対して帯状部20を介して連設されており、Y字状部分14Aはヒップの上周りを弯曲状に取囲むように接続され、かつ、Y字状部分14Aとウエスト部2とはほぼV字編部21を介して連設されているとともに、左右の脇腹部分22はヒップ部（後身部）13にその大部分が位置して縦方向のライン22Aを介して連設され、第1ヒップアップ部分17および第2ヒップアップ部分18、19はほぼ弯曲V字形状とされている。

【0013】ここで、前身部5および後身部13の中央縫目5A、13Aは左右別々に編成した筒編地を側面で裁断し、その端縁同志を接合・縫製して一体化したものであるが、縫目をなくして一体編成したもののでも良い。また、マチ部6についてはマチ片（マチ縫目）6Aを介して一体縫合したものである。本発明に係るボトムウェア1は、前記各部分の編組織を異ならすことで前記腹部5の第1部分8および第1ヒップアップ部分17が最も締付力（パワー）が強く、レッグ部4にかけて段階的に締付力を弱くしているとともに、左右に臀部対応部分16における丸味部分15が最も締付力が弱くされている。

【0014】より具体的に説明すると、腹部5における第1部分8および第1ヒップアップ部分17のパワーをP、脇腹部分22のパワーをP1、腹部5における第3部分10および第2ヒップアップ部分18のパワーをP2、腹部5における第2部分9のパワーをP3、腹部5における第3部分11および第2ヒップアップ部分19のパワーをP4、V字編部21のパワーをP5、帯状部20のパワーをP6、臀裂対応部分14のパワーをP7、レッグ部4および臀部対応部分16のパワーをP8、

および丸味部分15のパワーをP9とすると、そのパワーの強弱関係は、 $P > P1 > P2 > P3 > P4 > P5 > P6 > P7 > P8 > P9$ とされているのである。

【0015】なお、かかる構成において第1ヒップアップ部分17と帯状部20を同一編組織による同一パワーとしても良いこと勿論である。更に、本発明に係るボトムウェア1にあっては、前述したパワーの強弱関係とともに、編組織を変化させているのである。具体的には、パンティ部3の腹部5における第1部分8とヒップ部13における広巾ベルト状の第1ヒップアップ部分17とが3:1でニットタックによるストライプ編組織（縦方向ストライプ）とされ、パンティ部3の腹部5における第2部分9が2:2でニットタックによるメッシュ編組織とされ、パンティ部3の腹部5における第3部分10およびヒップ部13における第2ヒップアップ部分18が2:1でニットタックによるメッシュ編組織と部分11および19が1:1でニットタックによるメッシュ編組織とされ、パンティ部3のヒップ部13における臀裂対応部分14が1:1でニットタックによるストライプ編組織（縦方向ストライプ）とされ、帯状部20が2:1でニットタックによるストライプ編組織（縦方向ストライプ）とされ、左右の臀部対応部分16およびレッグ部4はプレーン編組織とされ、かつ、臀部対応部分16における丸味部分15の度目が拡大されているとともに、V字編部21は2:1でニットタックによるストライプ編組織（縦方向ストライプ）とされ、脇腹部分22は3:1でニットタックによるメッシュ編組織とされているのである。

【0016】すなわち、本発明に係るボトムウェア1にあっては、パンティ部3の前身部5において最もパワーを必要とする第1部分8において人体下腹部を確実に押え付けて膨出抑制効果を発揮させ、第2部分9および第3部分10、11と段階的にパワーを弱くしていくことにより着用感が向上しかつ美しいシルエットを得ることが可能とされており、一方、パンティ部3の後身部13においては、丸味部分15にてヒップ頂点付近の度目を拡大し、その周辺の臀部対応部分16では度目を小さくし、更にその周辺の編組織を変化させパワーを大きくすることによって人体ヒップの丸みを演出しているとともに、第1ヒップアップ部分17においてはパワーのある広巾ベルトを採用することで確実なヒップアップ効果を確保し、第2ヒップアップ部分18ではヒップ中心方向への伸びをおさえることで補助的なヒップアップ効果を

確保しつつパワーの急激な変化をなくして着用感を向上しているのである。

【0017】なお、2本の第2ヒップアップ部分18、19のうち下側の部分19は上側の部分18の補助的作用をし、パワーの急変を防止するために設けたものであり、また、本発明においては、ショーツレスも可能であるし、パンティ部3からレッグ部4にかけて度目を連続的に変化させることで身体へのフィット性の高い立体的な形状を得ることができ、これ故、ガードルとして用いても、またストッキング部と一体としたパンティストッキングタイツのパンティ部として用いることも可能となるのである。

【0018】

【発明の効果】以上詳述した通り本発明に係るボトムウェア（下着）によれば、編組織を変化することにより、各部分におけるパワーに変化をもたせ、人体腹部（下腹部）に関して確実な膨出抑制効果を継続しつつ着用感を向上し、また、確実なヒップアップ効果も約束できたのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るボトムウェアの正面（前面）図である。

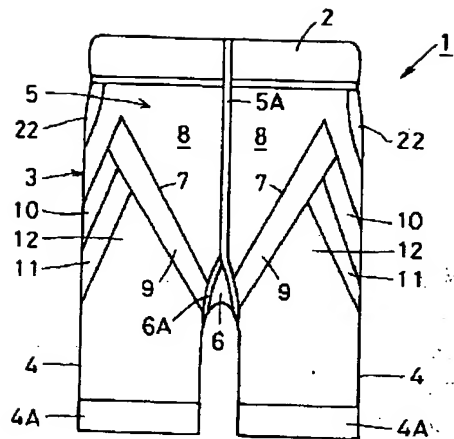
【図2】本発明に係るボトムウェアの背面（後面）図である。

【図3】本発明に係るボトムウェアの側面図である。

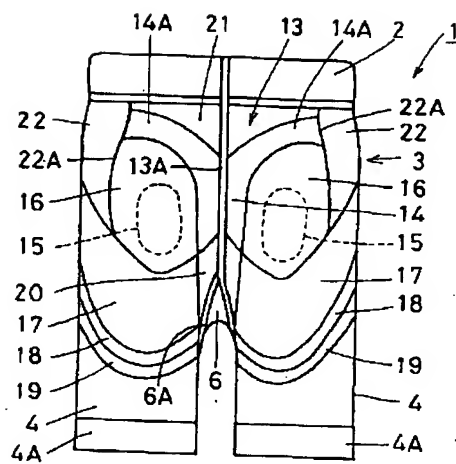
【符号の説明】

- 1 ボトムウェア
- 2 ウエスト部
- 3 パンティ部
- 4 レッグ部
- 5 腹部（前身部）
- 6 マチ部
- 7 V字ライン
- 8 第1部分
- 9 第2部分
- 10 第3部分
- 13 ヒップ部（後身部）
- 14 臀裂対応部分
- 15 丸味部
- 16 臀部対応部分
- 17 第1ヒップアップ部分
- 18 第2ヒップアップ部分

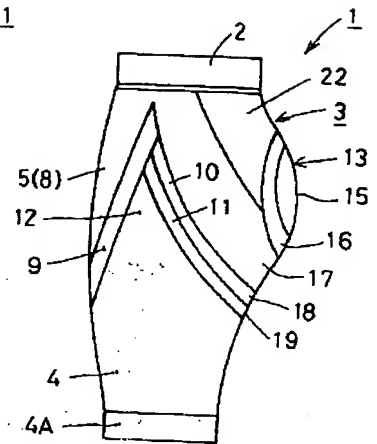
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.<sup>6</sup>

A41C 1/02

D04B 1/24

識別記号

FI

A41C 1/02

D04B 1/24

Z